



萌木

3月号



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和5年3月14日発行

～自尊・立志・感動～

「計画を立てる」ということ

校長 山田 勝

今は3月も半ば、3学期もいよいよ終わり1年間の学校生活が終わろうとしています。そして、3年生は卒業に向け、1, 2年生は進級に向け今年のまとめと新年度、どう取り組むか目標と計画を立てる、そのような時期にもなっています。

本校には多くの学校から学校だよりを送っていただいています。その中に、「ラプラスの悪魔」という言葉を表題にしている一文を拝見しました。今まで自分の中では触れてこなかった単語だったので、とても興味が引かれ一読し、また調べてみました。そうすると「ラプラスの悪魔」とは近代物理学の中における概念の一つで、「その瞬間での世界中のあらゆる情報を知ることができたならば、この先何が起こるか完全に予測することができる」という考え方でした。この概念は物理や数学の世界でも広く議論されてきたようです。自分も自分なりに考えてみました。

ある環境の中で過去から現在に至る過程と現在の状況が完全に把握できれば、未来を完全に予測できる。というのであれば、少しでも多く、過去から現在へ至る過程と現在の状況を把握できれば、予測の正確度は高くなっていく、と捉えてみることにしました。こう考えると、私たちが「計画を立てる」ときのとても有効になる考え方になると思います。

実際に計画を立てるとき、その前提となる分析が少し不十分のままになってしまいがちです。過去・現在の先にある未来、という視点を持って「計画を立てる」ことに取り組めると、より精度の上がる計画ができるのではないのでしょうか。

これからも、「計画を立てる」際に、現状を分析・把握することを取り込む姿勢を持つことが、計画の実効性を高める手立ての一つであることを意識して、生徒に向き合っていきたいと思います。

今年度を振り返って

この1年間、保護者の皆様におかれましては第七中学校の教育活動につきましてご理解・ご協力をいただきありがとうございました。

本校での感染状況等により様々な対応をお願いしてまいりました。

学級・学年閉鎖に伴う行事の延期、参観日の非公開への変更等多々あった対応にご協力いただきました。そのような状況の中でも、生徒たちはたくましく育てられています。学ぶ機会にどん欲に、1, 2年・はしうちの移動教室、3年修学旅行や校外学習、体育祭・合唱コンクールなどの取り組みでも、今学ぶべきことにしっかり取り組み成長してくれたことと感じています。十分に整った状況ではない中で、今できることにしっかり向き合える力が身につけてきています。

今後とも、保護者の皆様と、共に生徒と向き合い、生徒が各自の夢や目標を達成することを見守り助けていけますよう、お願いいたします。